

平成25年8月20日
北海道電力株式会社

原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合における指摘事項に対する回答一覧表

(本日回答)

第3回審査会合（7月25日）における指摘事項

No.	指摘事項	回答
0725-06	可搬型ポンプで事故を防ぐものは2セットが必要。再循環ユニットについても2箇所の注入点を設けること。	可搬型大型送水ポンプ車の台数および注入点の箇所を見直す。

第4回審査会合（7月30日）における指摘事項

No.	指摘事項	回答
0730-08	冬季対策について、ホース通水中断時の凍結防止についても分かるように修正すること。	資料1-4 P1
0730-09	冬季対策の-19℃の設計について、加温していない設備の妥当性について説明すること	資料1-4 P1
0730-11	使用機器リストの可搬型大型送水ポンプで、予備1台の表記は不適切であり見直すこと。	台数の表記を「2台+ α 」に見直す。
0730-12	可搬型大型送水ポンプ車の接続口は、ラインが近接しているなどで共倒れにならないかを審査で確認する。	資料1-4 P2
0730-15	代替非常用発電機へのタンクローリー接続の順番が1,3,2号機となっている。1,2号機が停止している条件であれば、3号機の接続を優先するよう見直すこと。	3号の接続を優先するよう見直す。

(回答準備中)

第3回審査会合（7月25日）における指摘事項

No.	指摘事項	回答
0725-07	原子炉格納容器圧力・温度の推移の解析結果については、長期の収束状況を示すことが必要である。温度・圧力が上昇傾向から下降傾向になるまでの温度推移を示すこと。また、ダクト開放機構が作動する雰囲気温度 110℃に達する時刻を合わせて示すこと。	
0725-08	起因事象については、地震・津波等、外部事象 P R A も踏まえた検討を行なうこと。	
0725-09	代替 CV スプレーポンプの機能はスプレー機能と炉心注入機能を兼ねるが、事故シーケンスに応じた機能が期待できるか考え方を示すこと。	
0725-10	入力条件の保守性については、入力条件の変化による解析結果の感度を押さえた上で説明すること。	

第4回審査会合（7月30日）における指摘事項

No.	指摘事項	回答
0730-01	事故の際、対処にどれだけ時間余裕があるか見たい。解析に使用した時間と手順に基づく操作時間の関係を整理すること。	
0730-02	解析条件については、詳細なデータも含めて、標準的な値とどう違うか説明すること。	
0730-03	解析条件では、他も含めて入力値の考え方を全体的に整理して提示すること。	
0730-04	主蒸気逃し弁の開放は30分までに完了としているが、対策要員の移動に3分、要員2名による弁の操作に15分、踏み台の準備に1分40秒、あわせて19分40秒であり余裕がない。もっと余裕を持って対応すべき。	
0730-05	2次系強制冷却を30分としているが、それが40分ではだめか。感度解析をしているなら示すこと。	
0730-06	長期的な格納容器冷却についての評価では、温度が安定することの説明だけではなく、何度で安定するかを示すこと。	
0730-07	資料2-2 補足説明資料8. の除熱性能曲線について、除熱に係るパラメーターであり、条件等を確認したうえで説明すること。	
0730-10	可搬式設備の有効性に関し、構内道路や斜面の健全性確保について説明すること。	
0730-13	資料2-2 補足説明7.R C P シール L O C A 時の漏えい量については、ラビリンス部の健全性も含めて評価すること。	

0730-14	対応手順と所要時間について、実際の手順を入力して解析しないと妥当性が確認できない。	
---------	---	--

第6回審査会合（8月1日）における指摘事項

No.	指摘事項	回答
0801-01	事故シーケンス全体を通して、解析の入力条件の考え方を整理して説明すること。	
0801-02	重大事故等対処設備が、規則 43 条（重大事故等対処設備）の要求事項のうち、共通要因により設計基準事故対処設備の安全機能と同時にその機能を損なわれるおそれがないよう措置していることを示すこと。	
0801-03	ATWS 緩和の解析について以下を踏まえて説明すること。 ・減速材温度係数、ドップラー効果、ボイド等、反応度に影響を与える要素を整理して説明すること。 ・RCS 温度の揺らぎと、反応度のトレンドとの関連について説明すること。	
0801-04	ATWS 緩和設備が作動しなかった場合の運転員によるバックアップ操作についても、手順があるのであれば明記すること。	
0801-05	蒸気発生器の水位が低下している状態でも、事象収束に必要な手順が、解析上定めた時刻までに、余裕をもって完了できることを説明すること。	
0801-06	炉出力に対する N I S の追従性を説明すること。また、N I S の校正について説明すること。	

第7回審査会合（8月13日）における指摘事項

No.	指摘事項	回答
0813-01	ディーゼル発電機および直流電源設備の負荷と電源設備の容量策定の考え方について資料を作成して説明すること。	
0813-02	塩害対策について資料にまとめて詳細に説明すること。	
0813-03	後志幹線と泊幹線が近接する箇所について詳細な位置関係を図面で示し、共通要因故障について説明すること。泊幹線と6.6kV回線が交差する箇所も同様とする。	
0813-04	ディーゼル発電機燃料油の補給の運用について説明すること。	
0814-05	ディーゼル発電機のタンク、ポンプについて、単一故障を想定した場合の評価について説明すること。	

(回答済み)

第3回審査会合（7月25日）における指摘事項
（第4回審査会合において回答）

No.	指摘事項	回答
0725-01	初動対応要員が十分に確保されており、不測の事態にも備える余裕をもっているか示すこと。	資料2-1 P 1 6
0725-02	3号機審査の前提として1・2号機の運転状態をどう考えるかを示すこと。	資料2-1 表紙に記載
0725-03	事象発生後10分間で、どのようなパラメーターをみてプラントの状況判断するのか。何が起きたか分からない状態でどう判断するか示すこと。	資料2-2 P 2
0725-04	炉心の状況がより分かりやすく理解できるよう、トレンドグラフ等を追加すること。	資料2-1 P 4, 5, 6, 7, 8
0725-05	代替屋外給水タンクを使用するのなら、その説明を資料に追加すること。	資料2-2 P 1 5

以上